



Title	ミールカード
Author(s)	濱田, 康行
Citation	農林経済, 9757, 1
Issue Date	2006
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/1000
Type	column (author version)
File Information	norin9757.pdf



[Instructions for use](#)

ミールカード

「食育」という言葉を知っていますか。食事と教育を結びつけた造語です。この意味するところは、「健康の源は規則正しい食事にあること、さらに食事は文化であり、ただお腹をいっぱいにする行為ではない。」ということをお教育することです。

少し前の統計ですが、東京のサラリーマンの4人に1人は満足な朝食をとっていないそうです。北海道大学の生活協同組合が調べてみると、やはり一限目の講義に何も食べないでやって来る学生が半分以上でした。どうしたら彼らに食育をすることができるでしょう。

学生食堂は朝から営業しています。しかし利用が少ないといくら営利を目的としない生協でもやれません。たまに食べに行くと言営業は昼からなんていうことになっていると、たまに来る人も来なくなる。こんな悪循環をどうやって断ち切るかを長い間考えていました。

ひとつのアイデアが、ある大学生協から生まれました。それがミールカードです。これは、食堂で使える定期券。これを提示すれば一年間、生協食堂で食事ができる。もちろん、一日の使用限度（1000円）はありますが朝食から夕食まで自由に使えるわけです。試行として、昨年から入学式の際に一年生限定で売り出しました。親にしてみれば、初めて親元を離れる子供が心配、特にちゃんと食事をするだろうかという心配はとても大きい。だからかなり売れました。

さて1日1000円というのがなかなかの名案。大学生協は安いので1日2食ではなかなか1000円にならない。そこで朝食もということになる。年間パスを、12万円～15万円で販売します。だから、1日1000円を120日～150日やれば元が取れ、あとは丸得という定期券は好評でした。そしてなにより朝食をとる学生が増え、おかげで朝の食堂にも活気が戻り、そこで働く人々にも元気が出てきました。

良い事づくめなのですが、実は心配もあります。それは食堂事業の採算です。当初、そんなパスを売ったら食い倒されてしまうという心配がかなりありました。しかし、経営努力で採算割れはなかった。むしろ、学生の食育に貢献できたという食堂の誇りが得られたのが大きかった。朝食のメニューの拡大・改善にも力が入ってきます。そうするとお客も増える。

なんだか馬の鼻先にニンジンのような話でもありますが、ミールカードは学生の健康維持に大いに貢献したのです。これは日本の農産物の消費拡大を考える上でもヒントになるのではないのでしょうか。食はなによりも大事、安全な内容で供給が安定していなければなりません。でも、それを人々にわかってもらうには工夫が必要です。